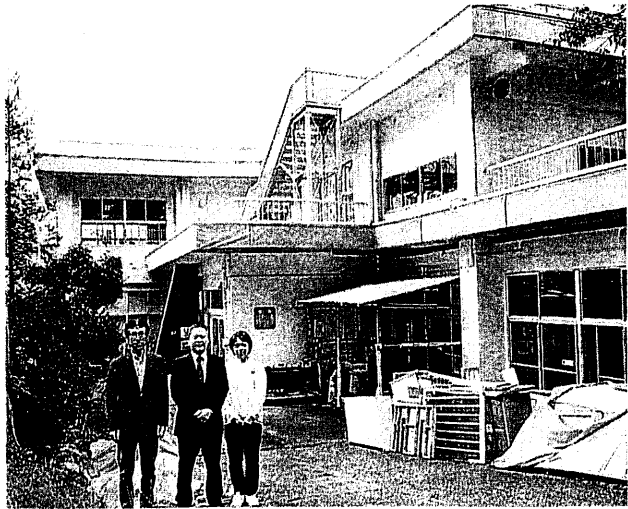


山本愛泉保育園が50周年

11月18日に「記念感謝礼拝」



左から大津園長、久保田理事長、山田昌子主任保育士

38人と園児数は減少してしまっただが、同保育園ならではの「一人ひとりの個性を重んじる」保育を続けている。

記念事業では現在、園舎内装改造・改修を行っており、今月末に工事が終わる予定。安全面で段差を無くし、エコ化で

サッシも二重にした他、感染症対策として熱交換型換気システムやCO2センサーも配備される。また、創立50周年記念誌「虹のかけはし」を12月に発行する予定となつて

いる。
山本町の熱い思いから誕生した同保育園。地域活動に園舎・園庭を利用するなど、現在も友好関係が続いている。

保護者会「花の会」では現在、「あいせん50プロジェクト」として、少子化による園児数減に伴う花の会活動費充当と、園庭砂場のリニューアル費用充当を目的とした寄付金活動を行っている。受付期間は10月31日まで。

寄付金窓口は、同保育園または銀行口座「大光銀行十日町支店、山本愛泉保育園 花の会 会長 橋本賢太、口座番号3542400。

キリスト教保育園Ⅱ社 会福祉法人・山本愛泉保育園（久保田愛策理事長、大津富士夫園長）が今年創立50周年を迎え、11月18日午前10時30分、同保育園で「記念感謝礼拝」が行われる。

同保育園誕生は、昭和45年2月、当時山本町総代の村山謙一氏と十日町教会牧師の松井愛美氏が「山本でも保育園がほしい」という声がある」という会話をした事から始まった。

山本町は振興住宅が増

え始め、住民にとって保育園の必要性が高まっていた。山本町総意の設立提案。稲荷神社協の土地を無償提供し、住民からも寄付を募った。

昭和48年11月に現在の園舎が竣工、翌年4月1日から念願の保育が始まった。多い時は80人の子ども達がおり、これまでに705人の卒園児を輩出している。

稲荷神社の鳥居を潜ってキリスト教保育園に入る、全国的にも珍しい立地。少子化により現在は